



発行

NPO法人 大阪難病連加盟
大阪乾癬患者友の会(梯の会)

特集

○クリニックにおける乾癬治療



・・・ Index ・・・

・会長挨拶	P1	・VS乾癬との40年	P8
・活動報告・活動予定	P3	・乾癬QA	P10
・決算報告・予算案	P4	・乾癬ワンポイント アドバイス27	P14
・クリニックにおける乾癬治療の現状 乾重樹先生	P5	・お知らせなど	P16

「挨拶

コロナ禍での患者会活動

会長 岡田

会員の皆様コロナ禍をいかがお過ごしでしょうか。昨年3月頃よりコロナのために気が気でない日々をお過ごし

かと思えます。気がつくとも約1年に渡り不自由な生活が続いています。ワクチンが実用化され接種が始まっていますので近いうちには収束するのでは

と思います。基礎疾患をもっている比較的年齢層の高い患者会の皆様はなかなか気が抜けない日々が当面続くもの

と思います。このような時期です。このように行事を行えなくなりました。昨年

に開催した主な行事はマルホ株式会社 会社に開催いただいたWEB市民公開講座のみです。コロナ禍という状況で

致し方ないものと思いつつも皆様に申し訳ないとも思っていますが感染防止

の観点から致し方ないとも思っています。会報は何とか3回発刊することができました。幹事を除く他の行事はほとんどできませんでした。

今年度はコロナの様子を見つつWEBのイベントを作ってきたと考えています。WEBでのイベントの参加が難しい会員の皆様も多いことは承知しています。そのため皆様にはその記録をつぶさに会報に載せて情報を提供していきたいと考えています。

幹事(スタッフ)大募集!

大阪乾癬患者友の会(梯の会)では幹事の方を募集しています。スタッフが少数の為、大変苦慮しております。お手伝いして頂ける方はぜひご一報ください。(連絡は下記に)
◆会の携帯番号 : 070-8508-7156
◆会のメールアドレス : info-psoria1@derma.med.osaka-u.ac.jp
(または) kakehashi1998@gmail.com

不自由な今日此頃ですが体調や感染に注意され健康に過ごされることを願っています。



令和2年度に実施した行事

項目	回数	内容	時期	備考
定例総会・学習懇談会	0回			コロナ禍のため実施できず
市民公開講座	1回	WEB学習会		マルホ主催当会后援
女子会開催	0回			コロナ禍のため実施できず
交流行事	0回			コロナ禍のため実施できず
会報発行	3回			
幹事会	10回	会の運営	毎月	西区民センターにて コロナ禍のため一部実施できず
乾癬学会	0回	福島→WEB開催		コロナ禍のためWEB開催となる。 広報ブースはWEB開催
皮膚科学会	0回	京都→WEB開催		コロナ禍のためWEB開催となる。 広報ブースはWEB開催
臨床皮膚科医会	0回	浜松		コロナ禍のためハイブリッド開催となり広報ブースは非開催
三重の行事参加	0回	温泉、海水浴		コロナ禍のため実施できず
懇談会	0回	休止中		企画運営
大阪難病連 行事	複数回	大阪市内	ほぼ毎月	コロナ禍のため不参加
難病連 講演会	複数回	大阪市内		コロナ禍のため不参加

令和3年度の行事計画

項目	回数	内容	時期	備考
定例総会・学習懇談会	2回	未定	6/19 秋は未定	春はWeb上での開催、秋は可能ならWeb+会場での開催
女子の会開催	未定	未定	未定	コロナ禍のため
交流行事	未定	未定	未定	コロナ禍のため
会報発行	3回		5月, 8月, 11月	
幹事会	12回	会の運営	毎月	原則西区民センターにて
乾癬学会	1回	東京	9/3-9/4	WEB上での参加を原則
乾癬学習会と懇親会	1回	東京	9/4	可能ならWeb+会場での開催を検討。懇親会の開催は困難と思われる。
皮膚科学会	1回	横浜	6/10-6/13	広報活動をWeb上で実施
臨床皮膚科医会	1回	東京	4/24?4/25	広報活動をWeb上で実施
乾癬ハンドブック発刊	1回		上期	本編と別冊(資料集)、会員全員に配布予定
三重の行事参加	2回	温泉、海水浴	3月、8月	未定 8月は開催の方向
地区懇談会	未定	各所での患者交流会		コロナ禍が収束後に検討
大阪難病連 街頭キャンペーン	10回	大阪市内	ほぼ毎月	不参加を原則
難病連 講演会	複数回	大阪市内		不参加を原則

2020年度収支決算報告書(自:2020年1月1日～至:12月31日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	457,495	通信費	121,256
年会費入金 (@3,000円×118名分)	354,000	交通費	82,498
助成金	0	印刷費	43,163
寄付金	150,300	学習会費	0
雑収入(学習会参加費等)	30,002	学会費	0
		事務費	100
		会議費	9,650
		交流会費	0
		関係団体(乾癬連合会等)会費	23,600
		雑費	11,000
		25周年記念行事積立金	100,000
		小計	391,267
		次年度繰越金	600,530
		(別途 預り金)	9,000
合計	991,797	合計 (預り金を除く)	991,797
大阪乾癬患者友の会		上記収支においてすべての帳票を調べた結果 収支ともに誤りなきことを証します。	
会計 桔梗 誠治			
2021年1月9日		会計監査 加納修二	

2021年度運営予算書(自:2021年1月1日～至:12月31日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	600,530	通信費	150,000
本年度会費 (@3,000円×120名)	360,000	交通費	100,000
助成金	0	印刷費	180,000
寄付金等	200,000	学習会費	100,000
雑収入(学習会参加費等)	30,000	学会費	180,000
		事務費	5,000
		会議費	20,000
		交流会費	5,000
		関係団体(乾癬連合会等)会費	24,000
		25周年記念行事積立金	100,000
		雑費	10,000
		小計	874,000
		次年度繰越金	316,530
合計	1,190,530	合計	1,190,530
上記2021年度予算案策定しました。		大阪乾癬患者友の会 幹事会	
2021年1月9日			

「クリニックにおける乾癬治療の現状について」

医療法人 桃恵会 心斎橋いぬい皮フ科 院長
大阪大学大学院医学系研究科皮膚・毛髪再生医学寄附講座兼任

(本会相談医) **乾 重樹**



乾重樹先生

わたしと乾癬との関わりは平成3年阪大医学部を卒業後ただちに阪大皮膚科に入局したときに始まります。当時阪大皮膚科は吉川邦彦教授が主宰されており、先生のご専門が尋常性乾癬であったからです。おかげさまで乾癬外来を担当させて頂く機会を得、吉川先生、東山眞里先生をはじめ、大阪乾癬患者友の会相談医を今も務められている多くの先生のご指導を受けることができました。現在は大学からクリニックへ診療の場を移し、乾癬診療に当たっています。今回はその現状について編集部よりいくつかご質問がありましたので、Q&A形式にてお話していきたいと思っております。

「プソリアニュース」ではすでに多くの学識高い先生が乾癬についてご高説を述べられていますが、それに比べるとちょっと俗っぽい（もしくは宣伝っぽい？）ものになります。気楽にご笑読下さればと思う次第です。

◆クリニックの場所は？

「大阪市中央区の心斎橋にあります。地下鉄の駅から近く、近隣には大手デパートやブティックショップが建ち並んでおり、診療帰りにショッピングを楽しんで頂くことが可能です。」

◆どれくらいの患者さんが来られていますか？

「開院以来の年ごとの乾癬患者さんの人数を示します。総計では386名の方が受診されています。年々増加傾向にあります。2020年には172人の患者さんが受診されました。」



各年の乾癬で受診された患者さん人数



次に2020年の各月の患者さんの人数を示します。月にだいたい50名くらいの乾癬患者さんが受診されています。」



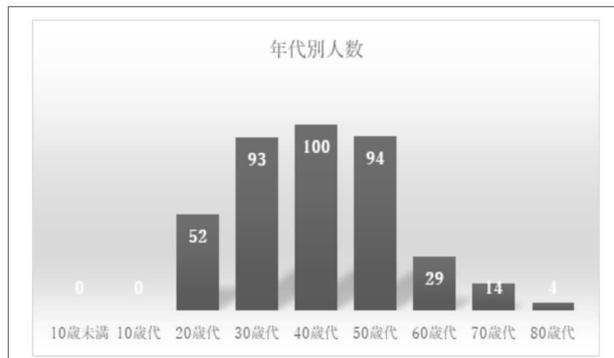
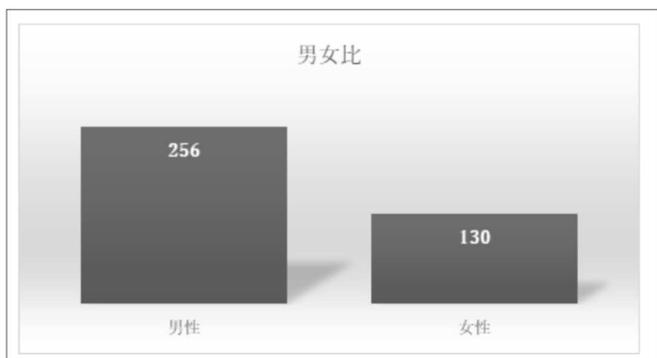
◆新規患者さんはどれくらいですか？

「2020年は80名の新規乾癬患者さんがおられました。」

◆患者さんの男女比や年代は？

「男女比はだいたい男性：女性が2：1です。

また年代別では30歳代から50歳代までが多くなっています。当院がビジネス街にあり勤労年代の患者さんが多いことを反映しているのだと思われます。」



◆どんな治療をなさっていますか？

「乾癬治療については全般的に対応しています。外用薬としては、症状や経過・各患者さん治療への効果度を配慮しながら、ステロイド外用薬、ビタミンD外用薬、ステロイド・ビタミンD混合外用薬を使って参ります。外用薬だけで効果が今ひとつであれば、紫外線照射を併用します。当院の特徴としては、主に大学病院や基幹病院に設置されているキャビネット型の全身紫外線（ナローバンドUVB）照射器（Walldmann UV7002）があることでしょう。1-2週に1回照射される方が多いです。診察予約とは別枠の予約が取れますので待ち時間が短くてすみます（ちょっと宣伝ですみません）。他の方が照射を受けられているとその間少し待つて頂きますが、予約なしで来院されても対応可能です。紫外線照射を頻繁に受けに来られるのは、多忙な皆様にはたいへんなことです。患者さんの利便性を最大限に考慮致したいと思っています。



紫外線に対する過敏症がある場合や紫外線照射併用でも効果が出にくいときには内服薬を考慮します。当院ではアプレミラスト（商品名：オテズラ）を使用することが多いです。

内服薬でも効果が出なければ生物学的製剤を考慮することになります。当院は日本皮膚科学会より生物学的製剤使用認定施設として認められています。大阪大学乾癬外来担当の渡辺玲准教授を非常勤医師として招聘しておりますので、先生とも連携をしながら慎重に生物学的製剤導入については検討しています。生物学的製剤使用中は定期的に胸部レントゲン写真の撮影も必要となります。そのために、当院と同じビルにあるLIGARE血液内科太田クリニック・心斎橋（太田健介院長）と連携しています。また、当院近隣にはリウマチの生物学的製剤開発者である西本憲弘先生が院長をされている大阪リウマチ・膠原病クリニックもあり、関節病変や生物学的製剤についていつでもコンサルトできる連携体制を取っています。また、総合病院としては日本生命病院や北野病院、国立病院機構大阪医療センターとの連携を図っています。」

◆治療や日常生活などアドバイス

「他施設でされているアドバイスと同じになるかと存じます。皮膚への刺激、喫煙、感染症、悪化因子となる薬剤、過度のストレスや疲労などを避けることでしょうか。メタボ対策も勧められますが、わたし自身メタボなのでなかなか言い出しにくいです（今まで「お前が言うな」ってツッコまれたことはありませんが、やせようと思います）。

まれに生物学的製剤に匹敵するような高額な非医療的治療をされている患者さんがおられます。しかし、どれもエビデンス（根拠となる医学的データ）に乏しいものが多くお勧めはしません。乾癬については新しい治療法が整い、症状に合わせた治療をきちんとしたエビデンスをもって提案することができます。既存治療へのご不満があったり、いろいろな人から勧められたり、などいろいろご事情はあると思いますが、病院やクリニックでの治療に専念して頂ければと思います。」

◆クリニックで受診するに当たって患者さんが心がけること

「とくに患者さんの方で心がけることはないように思います。どうぞご気楽に受診してください。敷居の低さと利便性がクリニックのよいところだと思います。大きな病院だと受診が一日仕事になってしまい、忙しいので受診できないという患者さんも多いと思います。そのような皆様のお役に立てればと希望しています。一方で乾癬専門の総合病院や大学病院には信頼を寄せることができるが、クリニックでは頼りない感じがするという方もおられると思います。総合病院や大学病院とのしっかりした連携強化を踏るとともに、患者さんから信頼を得られるよう日々研鑽することが我々開業医に求められることだと思います。」

—どうもありがとうございました。

2021年 学会予定

学会名	期日	場所
第37回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会	4/24(土)・4/25(日)	東京帝国ホテル
第120回日本皮膚科学会	6/10(木)～6/13(日)	パシフィコ横浜
第36回日本乾癬学会学術大会	9/3(金)・9/4(土)	東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ

★本会は例年通り、これらの学術大会に参加の予定ですが、コロナに伴う学会の動向によっては、一昨年までの展示ブース参加、学習会開催などは中止または形式の変更になります。

患者体験談

Vs 乾癬との40年史

困惑・絶望・希望、そして不安

浅田

青春時代のシンボル面皰(にきび)とも無縁の十代を過ごし、思い返せば40年前の20代後半頭皮にポツンと湿疹が出来「何か出来た」位の軽い気持ちで、放置していたら暫くすると治っていました。又湿疹の数が増え、これはまずいと思い、製薬メーカーのMRとして勤務しており、得意先のDrに相談「ステロイド軟膏を」との事でした。

ある日を境に猛烈な痒みと、枕元一杯のフケに悩ませられるようになり、非常に困惑し、又、寝不足をきたし、皮膚専門医に受診。

これまでの経緯を説明、Drより「尋常性乾癬の疑いがあるので皮膚細胞をとって検査をしましょう」検査結果はやはり尋常性乾癬と判明。

この病気は根治療法がなく対症療法中心なので一生付き合う気持ちでと言

われショックを受けましたが、その日から私と乾癬の長い長い戦いが始まりました。

治療の中心はステロイド軟膏を後にリキッド剤に変更、私の期待ほどの効果が上がりず頭皮全体に瘡蓋が出来るほどに悪化し、悪化を境に体にも乾癬がポツポツと出来、時間の経過と共に小さな皮疹が塊になり、島状に皮疹が増えると正比例し、体全体に痒みが発現。当時何かの資料の中に包帯法(密閉法ステロイド剤の強さが1ランク以上上がり長時間効果が期待できる)の記述を見て独断で両肘部分にサランラップで試してみる。

確かに単純使用より効果があったと思うが、皮膚が薄くなったように思いDrに相談。Drよりステロイドを塗布したテープ剤があるので処方しましょうと、毎晩風呂上りに皮疹の大きさに

合わせ妻の協力を得、テープ剤の貼付治療を開始。一進一退を繰り返すも、やはり目に見えての効果がなく、治療に対する否定感が強く出始めた頃でもあります。

乾癬治療効果が期待出来る光線療法の新記事の事をDrに相談。此方の医療機関では設備がないとのことで他の医療機関を紹介され、光線療法開始当初「カチカチ山の狸」のように背中にやけどを経験するが、ステロイド剤と光線療法併用。それとチガソンの服用の3併用治療でしたが、チガソンは副作用の為中止。

この時期の一番の悩みは痒み・皮疹による見た目の悪さ、そして多量の瘡蓋は勿論の事、血管透過性作用で赤ら顔になり、周囲から昼間から酒を飲んでいるようだと言われ揶揄されることでした。社員旅行・忘年会・営業会議等々に参加しても宿舎の大浴場には当然入れず何やかやと理由をつけ、一緒の入浴を断る。特に全員参加の社員旅行には本音では参加したくなかったです。

40代後半、色々な治療法を試すも効果が上がりず絶望的な気持ちに至った時、ネオール(免疫抑制剤)が特效薬というような情報を得、又Drに相談。この薬剤は簡単に使用するよいうな薬剤ではないとの説明を受けるが、現在の皮膚状態や精神状態を考え是非処方をお願いする。服用すると嘘のように皮疹が消失し「心の中でヤッター」

と叫ぶほどでした。

仕事の上では名古屋に単身赴任になり、名古屋の病院でもネオールの処方継続をお願い。そして単身赴任が終わり、帰阪。現在もお世話になっています日本生命病院に通院開始。

ネオールの副作用により腎機能が低下、ネオール離脱による症状悪化を抑えるため入院治療を薦められ、一か月程度入院。入院治療が功を奏したのか最悪の事態は脱出し、治療にも前向きに通じ組むようになる。退院後は週1回の全身及び部分的な光線療法を中心に行う事5年間。

その後、ある程度皮疹の改善が有りましたが、しかしなかなか思うような結果が出ず、イライラが募るような日々を送っており、このまま一生乾癬という病気が治らないまま、人生の幕を閉じるような感じで過ごしていました。

ちょうど10年前の2011年に発売されたステララ(生物学製剤)を東山先生より、今迄の治療と全く違うアプローチの治療薬との説明を受け、当然説明の中には効果・副作用の件も入り、唯新薬なので長期使用した場合の未知の副作用の件に関しても言及して頂く。

治療を始める前に必要な検査を受けてその時に右肘付近に数十年前から出来ていたガングリオンの摘出手術も受け、愈々治療開始となりますが、その時の心境は期待と、又効果が期待できない

のかとの思いが交差していました。

最初は確か一月に2回の投与を受け次回からは3ヶ月毎に投与を受けるスケジュールで併用薬としてD3配合剤の軟膏剤を使用。

治療初期はなかなか思うような効果が上がらず「又期待外れか」との思いもありましたが、東山先生の助言・説明等々頂き治療を継続していくと今迄悩みに悩んでいた皮膚が又赤ら顔も治っていき、皮膚が酷い時は真夏でも半袖・短パンが穿けなくて友人からも「如何したんや？」と聞かれていましたが、その言葉も過去形となり、今では夏の装いを楽しんでいきます

しかし良い事ばかりではなく生物学製剤の治療代が高く(高額医療を利用して)現在は仕事をして収入がありますが、年金生活になり、又他の病気で治療継続が出来なくなった時を考えると正直不安がいつぱいになるときもあります。医療は日進月歩と言われるようにこの先もつと安価で良い薬剤の上市を期待し現在の治療を続けていきたいと思っております。

色々とりとめのないことを体験談として書きましたが、同じ乾癬でお悩みの方の参考に少しでもなればと思います、又この様な機会を与えて頂いた梯の会員の方々、永年治療に携わって頂いている日本生命病院の東山先生にこの場をお借りし感謝申し上げます。

幹事会ではこんなことをしています

皆様、コロナの流行はなかなか収まりませんが、いかがお過ごしですか。本会も昨年度はついに対面での学習講演会を行うことが出来ませんでした。オンラインによる公開市民講座はなんとかすることができましたが、学習会の後で毎回行われる参加者の交流会もできませんでした。幹事会も昨年は一時的に中断していましたが、最近は再び月に一度行っています。

幹事会は原則として毎月第2土曜日の2時から大阪市の西区民センターで行っています。西区民センターは大阪メトロの千日前線、長堀鶴見緑地線の西長堀駅から徒歩2～3分の大変便利な所にあります。

幹事会では会で行う学習会や各種イベント、会報、学会参加や全国の患者会との共同行事など、様々な事について話し合いますが、そんなに堅苦しい雰囲気は全くなく、幹事の方が持ってきてくださったお菓子を頂きながら、ざくばらんに色々な事を話題にしてワイワイがやがやとやっています。会の活動だけではなく、お互いの乾癬の状態や治療などについてもいつも話題にしています。時には相談医の東山真里先生や、あるいは本会と親密に交流している三重や愛知の患者会の方が参加されることもあります。

本会が発足して20年以上経ちました。幹事も多くが高齢化してきましたが、皆病気に負けず、会の活動に参加しています。

一般の方の参加も大歓迎です。症状や治療で相談のある方、乾癬についておしゃべりしたい方、ぜひ一度ご参加ください。お待ちしております(会への参加は一面をご覧になって下さい)。



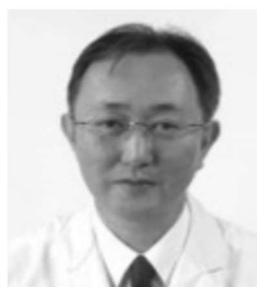
西区民センター

乾癬の疑問に答える！

第6回 「滴状乾癬」「膿疱性乾癬」「乾癬性紅皮症」について

伊丹駅前皮膚科クリニック(本会相談医) 樽谷勝仁

今回は「滴状乾癬」「膿疱性乾癬」「乾癬性紅皮症」についてお聞きしました。



お答えします～



①「滴状乾癬」「膿疱性乾癬」「乾癬性紅皮症」とはどのような乾癬ですか。

「滴状乾癬」は若い人によくみられる乾癬で直径が1cmくらいまでの円形から楕円形の乾癬と同じ皮膚症状が全身に出てくるといふ特徴があり、しばしば咽頭炎や扁桃炎などの後に起こります。1-3ヶ月で皮膚症状はなくなり、なくなつた後は再発することは少ないですが、なかには「尋常性乾癬」になる患者さんもいます。

「膿疱性乾癬」は発熱や皮膚の赤み

とともに細菌を認めない膿疱(膿を持った水疱)がたくさん皮膚に現れる乾癬です。いくつかの型があり、限局型の①、膿疱性乾癬の皮膚症状が、体の一部だけ(指先、手のひら、足の裏など)に見られる型や、②、尋常性乾癬の患者さんに一時的に膿疱を生じる型、汎発型の③、発熱、悪寒、全身倦怠感などを伴い、急激に全身の皮膚が赤くなり、その上に無菌性の膿疱が多数現れるEvon Zumbusch型や④、妊娠中に膿疱がたくさん現れる疱疹状膿痂疹などがあります。

「乾癬性紅皮症」とは乾癬皮疹が全身に及んで80%以上の皮膚が乾癬の皮膚となつたものです。皮膚から体温が奪われるため基礎代謝が亢進し、脱水やむくみなどの症状が見られます。

②これらが乾癬と判断されるのはどうしてですか。

皮膚科の教科書には乾癬は「尋常性乾癬」「滴状乾癬」「膿疱性乾癬」「乾癬性紅皮症」「関節症性乾癬」の5つに分類されています。これら5つとも乾癬と判断されます。

③乾癬は90%程度が「尋常性乾癬」だと思えますが、どうしてそれらの乾癬になるのですか。

「尋常性乾癬」以外の乾癬も免疫に

異常をきたしやすい体質の人に、外的な因子(ケガや感染症、ストレスや乾燥などの刺激、食生活)や内的な因子(糖尿病、高脂血症、肥満など)が加わることで発症するのではないかと考えられています。

④「滴状乾癬」「膿疱性乾癬」「乾癬性紅皮症」は一般的に尋常性乾癬の後になるのですか、それともいきなりこゝうした乾癬になることもあるのですか。またそれぞれ併発することもありますか。

「滴状乾癬」の場合はこのタイプの乾癬になつた後に尋常性乾癬になる可能性があります。

「膿疱性乾癬」の場合は「尋常性乾癬」の患者さんに一時的に膿疱を生じる型もありますが、多くは「膿疱性乾癬」として発症します。

「乾癬性紅皮症」の場合ははじめから「乾癬性紅皮症」になる患者さんはまれで、「尋常性乾癬」になり、その後治療しなくなつたり、治療が適切でなかつたり、薬剤や感染症などの影響により、「乾癬性紅皮症」に変化してしまう患者さんが多いようです。

⑤それぞれの治療法について教えてください。

「滴状乾癬」の場合は咽頭炎や扁桃炎の治療で治ることが多いです。「尋

常性乾癬」になってしまったら通常の乾癬の治療をします。

「膿疱性乾癬」の場合は治りにくく、また発熱などの症状もあることがあるので生物学的製剤などの治療が必要になることが多いです。

「乾癬性紅皮症」の場合も症状が重いため生物学的製剤などの治療が必要となる人が多いです。

⑥「膿疱性乾癬」は難病指定になっていますが、それはどうしてですか。また「乾癬性紅皮症」も重症だと思いますが、これが難病指定ではないのはどうしてですか。

「膿疱性乾癬」は、難治性であることや、発熱などの皮膚以外の症状もあることがあり、治療に急を要することなどから、指定難病になっています。ただし限局型（①の説明の1、2は通常、全身の症状は軽度で、一時的であるため特定疾患の対象外です。「乾癬性紅皮症」は「尋常性乾癬」がこじれて「乾癬性紅皮症」となることが多く、現在難病指定にはなっていません。

⑦これらの乾癬になったらどういうことに注意したらいいですか。

「滴状乾癬」の場合は咽頭炎や扁桃炎があればそちらを完全に治してください。「膿疱性乾癬」や「乾癬性紅皮症」の場合は悪くなる原因、例えば過

度の肉体的・精神的ストレス、偏食、風邪をはじめとするさまざまな感染症などがなくかどうかわかるとともに、皮膚科の主治医の先生と一緒にきちんと治療していくことが大切です。

⑧また比較的軽症の「尋常性乾癬」が重症化したり、紅皮症や膿疱性乾癬にならないようにするにはどんなことに注意していけばいいでしょうか。

⑦と同様に重症化する原因を見つけだすことと、「滴状乾癬」の大部分以外はその治療は数十年に及ぶことも少なくありませんので焦らず、皮膚科の主治医の先生と一緒に気長に乾癬と向き合ってください。



INFORMATION

★「ドボベツフォーム」の製造販売承認を取得

レオファーマ株式会社は2021年1月6日付けで、尋常性乾癬治療剤ドボベツの新剤形、「ドボベツフォーム」の製造販売承認を取得しました。ドボベツ尋常性乾癬の外用剤としてレオフォーマーが開発し、既に軟膏やゲルが使用されています。「ドボベツフォーム」は、既存の軟膏の有効性を担保したうえで、簡易性と利便性の観点から治療の新たな選択肢を提供することを目的に開発が進められ、2015年に米国で初めて承認されて以来、すでに欧州諸国など世界40か国以上で承認されています。レオフォーマーが供給を担当し協和キリンが販売します。1日1回、患部に適量塗布するという事です。



(以上は、レオフォーマーのプレス発表を参考にし、本会でまとめたものです)

★大阪難病連が移転

本会が所属している特定非営利活動法人「大阪難病連」が移転しました。新しい住所は以下の通りです。

〒558-0056 大阪市住吉区万代東3丁目1-46

大阪府こころの健康総合センター3階

TEL・FAX (06-6654-3005)

Mail : nanren@vesta.ocn.ne.jp

URL : <http://osaka-nanren.info/>



これは前号で樽谷先生によるQ Aとして掲載したものと同じです。今回まだまだコロナの勢いが収まらない状況を受けて再掲載しました(本会のホームページに掲載している分です)。

乾癬と新型コロナウイルスに関する Q&A

1. コロナが発生して半年以上経ちますが、乾癬患者がコロナに罹りやすいというようなことはありますか。また乾癬患者がより重症化しやすいというような事実がありますか

乾癬患者がコロナにかかりやすいといったことはないです。また、乾癬患者がより重症化しやすいといったこともありません。

2. 一般的に乾癬患者は感染症にかかりやすいですか。

乾癬は、免疫バランスの異常が原因で起こる病気ですが、乾癬患者が特に感染症にかかりやすいということはありません。

3. 先生のご担当の乾癬患者でコロナに感染された方はおられるでしょうか。その場合乾癬の状態とコロナに関係性は見られたでしょうか。

現在のところ私の乾癬患者でコロナに感染された方はいらっしゃいません。

4. もし乾癬患者がコロナに罹患したらどんなことに注意したらいいです

乾癬患者でない方と同じように入院やホテルに隔離がすぐにできない場合は家族にうつさないように

- 1,可能な限り部屋を分ける。
 - 2,家の中でもできる限り全員がマスクを着用する。
 - 3,小まめにうがいと手洗いをを行う。
 - 4,できる限り換気を行う。
 - 5,感染した人が触れたドアノブ・便座などの消毒を行う。
 - 6,タオルや食器の共用を避ける。
 - 7,感染した人の入浴を最後にする
- などの対策をしてください。

5. 乾癬治療薬、特に生物学的製剤や飲み薬などはコロナに罹患しやすくなったり、あるいは悪化させたりする可能性はありますか。

生物学的製剤や飲み薬によってコロナに感染しやすくなるかどうかは不明です。生物学的製剤による治療はコロナによる病気の症状を悪化させる可能性は低いと考えられていますが、コロナにかかった場合の生物学的製剤はコロナが完全に治るまで中止もしくは延期することが推奨されていますので、生物学的製剤を使っているコロナにかかった場合は主治医の先生とよく相談して下さい。また、コロナは肥満の患者さんが重症になりやすいので、生活習慣に気をつけるようにしてください。

6. 塗り薬や光線療法はどうか。

塗り薬や光線療法はコロナに罹患しやすくなったり悪化させたりする可能性はないと思います。

7. 三密の場所や旅行・食事など、感染しやすい場所は、乾癬患者はより注意すべきですか。

乾癬患者だけではなく、三密の場所や旅行・食事など、感染しやすい場所は注意する必要があります。

8. インフルエンザの予防注射などは積極的に行った方がいいですか。

積極的に行ってください。

9. 今後乾癬患者がコロナや感染症対策として注意した方がよいこと、心掛けたらよいことにはどんなことがありますか。

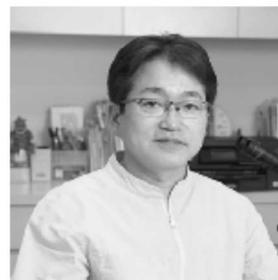
乾癬患者だけではなく、

1. 「三密」を避ける
2. 人混みに入る時は必ずマスクを着用
3. 「目、鼻、口」を不用意に触らない
4. 部屋の換気
5. 毎日検温する
6. 適度な運動を心掛ける
7. 感染リスクを高める5つの場面、つまり①飲酒を伴う懇親会等、②大人数や長時間におよぶ飲食、③マスクなしでの会話、④狭い空間での共同生活、⑤居場所の切り替わりをなるべく避けてください。

飲酒をするのであれば、①少人数・短時間で、②なるべく普段一緒にいる人と、③深酒・はしご酒などはひかえ、適度な酒量で、箸やコップは使い回さず、一人ひとりで、座の配置は斜め向かいに、会話する時はなるべくマスク着用、（フェイスシールド・マウスシールドはマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要です。）換気が適切になされているなどの工夫をしている、ガイドラインを遵守したお店で、体調が悪い人は参加しない、などを心がけてください。



その29…乾癬の家族内発症



小林皮フ科クリニック 小林照明

30歳代外国人男性（東南アジア系）で、2年ほど前から皮疹が全身に地図状に分布している患者さんが来られました。10歳以下の男の子3人と一緒に来られて、「私と同じ乾癬ではないのか？」という不安の解決が自身の治療よりも優先しての第一目的でした。在日期間は長いようで会話での意思疎通は問題無さそうでしたが、パンフレットなどの文書を使っての説明は、文字が苦手とのことで、持ち帰って友人に読んでもらうこととなりました。診察してみますと子供たちは顔面を含めて背部や肘・膝部を中心に湿疹局面が分布しており、明らかにアトピー性皮膚炎でした。聞いてみると3人ともかなりの幼少期から皮疹が出現していると言われ、お父さんより以前から症状はあったようです。

乾癬は家族内発症が約5%ほどであり、逆に言うと9割以上の方には家族内には同症の人がいないこととなります。また男性では中高年に好発年齢があり、幼児からの発症はかなり少ないと言えます。

お父さんには、症状・発症頻度・年齢の説明をして、子供さんたちにはアトピー性皮膚炎の治療を、自身には紫外線照射を中心とした乾癬の治療を受けて頂くことになりました。

最後には「この子供たちが将来的に乾癬にならないのか？」という質問を受けましたが、これについては私を含めて誰も「なりません。」と断言できないでしょう。家族内発症がゼロではないですし、経験的にアトピー性皮膚炎との併発は少ないとは言われていますが、私のクリニックでも両方で悩んでおられる患者さんもおられます。普通の人が高中年になっても0.数%の割合で発症リスクがあるわけで、この3人の子供さんも例外ではありません。

将来、治療方法の進歩とともに病因の解明や、より詳しい発症リスク要因が解明されることを期待しています。

(小林皮フ科クリニック…大阪市淀川区三国本町3-37-35 阪急宝塚線三国駅下車)

大阪乾癬患者友の会（梯の会） 顧問・相談医一覧

名称	名前	所属・関連病院	住所
顧問	吉川邦彦先生	大阪大学名誉教授	
相談医	東山眞里先生	日本生命病院	大阪市西区江之子島2-1-54
	片山一朗先生	大阪大学名誉教授	
	乾重樹先生	心齋橋いぬい皮フ科	大阪市中央区南船場3-5-11
	谷守先生	谷皮フ科	豊中市庄内西町3-2-6
	川田暁先生	近畿大学医学部付属病院	大阪狭山市大野東377-2
	松田洋昌先生	近畿大学医学部付属病院	大阪狭山市大野東377-2
	吉良正治先生	市立池田病院	池田市城南3-1-18
	小林照明先生	小林皮フ科クリニック	大阪市淀川区三国本町3-37-35
	中村敏明先生	なかむら皮フ科	大阪市西区西本町3-1-1
	辻成佳先生	大阪南医療センター（整形外科）	河内長野市木戸東町2-1
	樽谷勝仁先生	伊丹駅前皮膚科クリニック	伊丹市中央1-4-4
	鶴田大輔先生	大阪市立大学医学部付属病院	大阪市阿倍野区旭町1-4-3
	立石千晴先生	大阪市立大学医学部付属病院	大阪市阿倍野区旭町1-4-3
	山岡俊文先生	中津皮フ科クリニック	大阪市北区豊崎3-20-12パールグレイビル6F
	山崎文和先生	関西医科大学	枚方市新町2-5-1
谷崎英昭先生	関西医科大学	枚方市新町2-5-1	
大畑千佳先生	大阪急性期・総合医療センター	大阪市住吉区万代東3丁目1?56	



お知らせ

★編集局では皆さんの原稿を募集しています。乾癬についての自分の体験、自分が行っている治療法、日常生活で心がけていること、乾癬治療に役立った事、その他何でも構いません。エッセイ・詩・短歌・俳句などもぜひ投稿してください。お待ちしております。

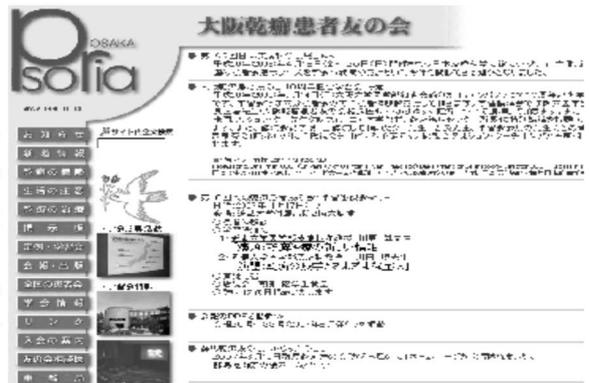
★「PSORIA NEWS」では「乾癬Q&A」コーナーを設けています。症状や治療法、薬など乾癬に関する質問がありましたら編集局までお寄せ下さい。代表的な質問などを選んで、相談医の先生方に会報上で答えて頂きます。

幹事募集！

★幹事募集！「大阪乾癬患者友の会」の幹事会は全て会員や相談医の方のボランティアで成り立っています。会では幹事になって頂ける方を募集しています。幹事的人数が少なく大変困っています。自分のやれる範囲で結構ですから、ぜひお手伝い下さい。当面次の仕事をお手伝い頂ける方を探しています。 1) 定例総会等行事のボランティア 2) 会報送付作業のボランティア 3) ホームページ管理等のボランティア 4) 幹事会参加メンバー(5名程度)

ホームページのご案内

大阪乾癬患者友の会(梯の会)では、ホームページを作成・運用しております。乾癬についての治療法・薬・生活上の注意や総会のお知らせ・会報の抜粋・掲示板・乾癬関係のホームページへのリンクなどが掲載してあり、役に立つ情報が一杯です。ぜひ御覧になって下さい。ホームページアドレスは下記の通りです。



<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/psor/>

会員の皆さまへ お願い

※会費をダブって振り込まれる方が増えています。領収書は大切に保管しておいてください。なお、会報が届かない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

※転居されたときは、会報等を確実にお届けできるよう、事務局までご連絡ください。

「PSORIA NEWS」 第81号 2021年(令和3年)5月発行

発行：NPO法人 大阪難病連加盟
大阪乾癬患者友の会(梯の会)
事務局：〒550-0006 大阪市西区江之子島2-1-54
日本生命病院皮膚科内

E-mail
info-psoria1@derma.med.osaka-u.ac.jp
TEL 070-8508-7156(梯の会 携帯電話)
発行責任者 岡田(会長) 小林(編集責任)

2021年 大阪乾癬患者友の会 幹事

会長	: 岡田	会計・イベント	: 桔梗	総務	: 原田
副会長	: 妻木	監査・難病連	: 加納	女子会	: 吉田
副会長	: 吉岡	会報編集	: 小林	幹事	: 浅田
事務局長	: 長生	難病連・広報	: 宮崎	幹事	: 池内